



昭和興産は、中期経営計画「SK2020 価値創造企業への挑戦」で新規商材の育成および海外展開の強化を図る。新規テーマに関する内容は精査、見直しを行い、新テーマの追加や取り組み停止などを実施していく。中国では2018年初に広州の弁事処（連絡事務所）を分公司に昇格させる方針だ。

海外ビジネスではタイ、上海、インドネシア、香港に現地法人を保有、16

マとして機能フィルムおよびその原料、レアメタル、食品および半導体関連製品などの取り扱いを強化する。注力製品と位置づけるセルロースナノファイバーについては長期テーマとして引き続き取り組んでいく。

海外には広州で上海現法の弁事処を立ち上げている。この弁事処は中国での営業強化の一環として、18年1月をめぐりに分公司へと昇格させる。日系メーカー向けの販売に力を入れる。海外の4現法を合わせた直近の業績は、前年度比で増収増益となっている。中計期間中にタイ・ブラスワンを意識した新拠点の開設を検討していく。

17年度上半期の業績は好調に推移し、通期も増収増益となる見通し。樹脂関連製品や紙おむつ用バックシートなどのサニタリー製品、界面活性剤などの洗剤原料、建材、土木資材など多くの商材で販売が増加した。

新規ビジネスでは新規事業開発部と各営業部が連携し取り組みを進めている。そのテ

20年度売上高1000億円へ

